



あ さ の は

【基本理念】私たちは命と健康に向き合うことを医療の原点とします。

長岡赤十字病院

長岡市千秋 2 丁目 297-1

電話 0258-28-3600

ホームページアドレス

<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/>

带状疱疹ワクチン

～長引く痛みで後悔しないために～

薬剤部 品田 識博

带状疱疹は多くの方が子供の時に感染する水ぼうそう(水痘)と同じウイルスで起こる皮膚の病気です。水ぼうそうが治った後もウイルスは神経節に潜伏し、加齢やストレスなどで免疫力が低下するとウイルスが再活性化して带状疱疹を発症します。日本人成人の90%以上はこのウイルスが体内に潜伏しており、50歳代から発症率が高くなり80歳までに約3人に1人が発症すると言われています。

◆症状と治療

体の片側の一部にピリピリとした痛みが現れその部分に赤い発疹ができます。症状の多くは上半身に現れ、顔面、特に目の周りにも現れることがあります。带状疱疹にかかってしまった場合は抗ウイルス薬による治療を受けることができます。

気になる症状があれば早めに受診してください。

◆後遺症

皮膚症状が治ったにもかかわらず带状疱疹を発症した皮膚の神経支配領域に、症状の軽重はありますが「刺すような痛み」や「焼けるような痛み」と表現される痛みが長期または生涯にわたって続く带状疱疹後神経痛(postherpetic neuralgia 以下PHN)を発症することが最も多い後遺症です。50歳以上で带状疱疹を発症した人のうち、約2割がPHNになると言われています。

◆带状疱疹の予防接種

残念ながら抗ウイルス薬で治療を行ってもPHNを発症してしまうことがあります。そのため带状疱疹の「予防」を心がけておくことが大切です。带状疱疹ワクチンの接種や規則正しい生活習慣、適度な運動を心がける事で予防ができます。しかし带状疱疹ワクチン接種は保険適応ではなく全額自費診療であるため未だ広く普及するまでには至っていないようです。

現在使用可能なワクチンは2種類あり、それぞれ効果や値段、接種回数などが異なります。

【弱毒生ワクチン】(皮下注射：1回 9,350円※)

対象は「50歳以上」

60歳以上を対象とした調査によると、接種後3.12年の期間に未接種群に比べて带状疱疹の発症が51.3%、PHNの発症が66.5%抑制できたとの報告があります。

【不活化ワクチン】(筋肉注射：計2回で44,000円※)

対象は「50歳以上」と「免疫機能の低下またはその可能性のある方を含めた带状疱疹を罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の成人」に合計2回の接種が必要です。

50歳以上の方を対象に行った4年間の追跡において偽薬投与群に比べて带状疱疹の発症が93.1%低下、PHNの発症は100%抑制。また70歳以上を対象の試験では発症予防効果は85.1%、PHNの発症が85.5%抑制できたとの報告があります。

予防接種は带状疱疹を完全に防ぐものではありませんが、PHNの長引く痛みで後悔しないためにも接種を検討してみてはいかがでしょうか。予防接種をご希望の方は、かかりつけ医にご相談ください。

※長岡赤十字病院 令和5年10月1日時点での接種費用



病院薬剤師のお仕事紹介

薬剤部 部長 小島佳浩

薬剤師のイメージって・・・処方箋の薬を作ってくれる人、薬の相談ができる人といったところでしょうか。ほとんどが院外処方箋で、外来調剤が少ない病院の中の薬剤師はどんなイメージでしょうか。最後まで読むと、たくさんの仕事があることに驚かれるかもしれません。

最初に調剤業務です。

医師、歯科医師が作成した処方箋は、処方監査といって記載内容のチェックや併用薬・相互作用などを確認します。調剤には、錠剤の取り揃え、散薬の計量・分包、水薬の計量、軟膏の計量混合などがあります。病院の場合は、入院患者さんの注射薬の調剤があります。こちらも注射処方箋にもとづき、上の流れで調剤します。注射薬の混合は無菌環境で行います。調剤されて出来上がった内容について、今一度確認を行う最終監査を経て患者さんへお渡ししています。時間がかかるのは、この流れのためです。

院内製剤という販売されていない薬品を調製することがあります。論文、学会発表等で実績がある薬剤ですが、試薬を使って作成したり、カプセル剤の中身を使って、例えば軟膏など別な形の薬にしたりと手間のかかる薬剤です。

手術で使う麻酔薬、麻薬の管理、準備も行っています。麻薬は手術以外にも強力な痛み止めとして使われるため使用量が多く、関係書類に不備がないよう管理の徹底が重要な薬剤です。

医薬品情報に関する業務をDI (Drug information) 業務と呼びます。医療スタッフからの問い合わせ対応、病院採用薬の情報提供、採用薬の電子カルテへの登録、緊急時の情報提供、重大副作用、未知の副作用報告など膨大な医薬品情報の管理・収集・提供を行っており、DI業務をおこなう部屋 (DI室) には担当者がいます。また新しく開発された薬が有効かどうか、副作用はどうかを確認することを治験と言い、新薬として承認を受ける前段階の薬剤の管理もしています。

その他栄養サポート、感染対策など様々な医療チームに参加して、薬の情報提供を行っています。また、DMAT (災害時に速やかに医療を行うチーム)、医療安全、システム管理などにも携わっています。

当院ではこれらを分担してやっています。病院の規模によっては、すべてをやることはありませんが、限りある人数で多くの仕事をこなし、医療に携わっています。

患者会からの
お知らせ

がん患者サロン
「ほほえみサロン千秋」
毎月第一金曜日
14:00~15:30



感染対策に注意しながら開催しています。ただし、コロナウイルス感染の状況によっては中止となりますので、がん相談支援センターにお問合せください。

詳しくは当院ホームページのお知らせをご覧ください。

病棟では、

入院患者さんに出された薬の説明、副作用の確認 (聞き取りや検査値確認)、入院するときを持ってきた薬の確認、必要と考えられる薬の提案、注射薬を入れる速度や量の確認、退院時の薬のまとめなどを行っています。

抗がん剤は副作用が強く、正しい投与量、投与間隔で治療がおこなわれないと危険です。

レジメンといって、がん治療における薬剤の種類や量、期間、手順などを時系列で明記した治療計画を管理し、レジメン (治療計画書) 通りの治療かの確認、抗がん剤調製、説明、副作用の確認を行っています。



読者アンケートが
出来ました!!

より良い広報誌にするために、
ぜひ皆さんの声をお聞かせください。



HPからご覧の方は下記URLからも回答いただけます。
<https://forms.office.com/r/xjNHS8QmFr>